

年 頭 所 感



則 久 芳 行*

あけましておめでとうございます。

昨年は、プレストレスト・コンクリート建設業協会(PC建協)の諸活動にあたり多大なるご理解とご支援を賜りありがとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年のロンドンオリンピックでは、多くのメダルを獲得するなど日本人選手の活躍に大いに沸きました。日本選手団はチームジャパンとして一つになり、最後まで諦めずベストを尽くす戦い方が多くの国民に感動と勇気を与えました。また、チームが一丸となることでよりパワーが発揮されることを、改めて感じる事が出来ました。

一方、政治、経済情勢に目を転じると混迷する政局、長引く円高、欧州債務問題に加え、近隣諸国との領土問題に端を発し軋轢が生じるなど、行先きは不透明な状況が続いています。

さて、東日本大震災からの復旧・復興事業が本格化するとともに、自然災害に対する防災対策や既存ストックの耐震対策、また、老朽化した社会資本の維持管理・更新等が全国規模で実施されるなど、公共工事を取り巻く環境が変化するなか、私どもPC建協が果たすべき社会貢献のあり方について新ビジョン2011では、「PCの技術は持続型社会の基盤を支える技術として今後の社会資本整備ではこれまで以上に積極的に活用されるべきもの」とし、そのために私達はPCの専門技術力に研ぎをかけ、更なる品質の向上等に取組むとしています。

このPC建協の活動指針に基づき、専門技術力の活用により何ができるか、そのための事業方式のあり方等について昨年7月5日の北海道開発局を皮切りに国土交通省各地方整備局、沖縄総合事務局との意見交換会を開催しました。各整備局から、局長はじめ幹部の皆さまに出席していただき活発で有意義な意見交換が行えました。

本年度の中心テーマは「PCの品質確保、向上と既存ストックの長寿命化」を掲げ、まず、PC建協の研究開発等の取組みを紹介し、その中で、直轄国道の定期点検結果の分析を通じて得られた知見を基に「品質の長期保証制度の導入化可能性」の検討成果を報告し、続いて意見交換テーマ個々に対しより具体的な提案を行いました。

第1は、PC技術の専門性を適切に評価する総合評価落札方式の改善についてです。このテーマについては

これまでの積み重ねもあり、私達の提案を受け止めてもらいつつ、各整備局の状況に応じた改善が逐次進められております。

第2は、PC技術の専門性を発揮できる事業方式の導入についてであります。設計・施工に精通した専門技術を有する施工者が実施工に即した(部分)詳細設計を行う「部分詳細設計付」契約、補修補強について調査・診断・設計・補修工事を一体にした「パッケージ型契約」やプレキャスト製品の効果的活用について提案しました。これらについては各整備局で濃淡はあるものの、全体的には新しい事業手法として前向きな評価をいただいたと受け止めています。なお、すでに一部の整備局では、長期保証や部分詳細設計(修正設計)方式の入札契約方式の試行が検討されています。

第3は、今後の課題として、防災協定に基づく具体的な支援策や広報活動のあり方が話題として取上げられました。PC建協では、防災協定に基づく具体的な支援策について、「災害支援体制指針」を取りまとめたところであり、この指針にのっとり震災直後から被災橋梁の調査・診断および応急復旧等への支援活動を円滑に実施するための本部、支部の組織、体制の構築および支部ごとの要員確保、資機材の保有状況を定期的に把握することとしています。また、建設業の役割や社会資本整備の効果等について一般市民や将来の建設産業を担う学生等を対象に広報・宣伝活動を積極的に展開していくこととしております。

以上、全体を通して発注者とPC建協本部・支部が一同に会し、熱心な議論を繰り広げられた大変有意義な意見交換会ができたと考えています。今後も内容の一層の充実を図り、発注者の皆様との意見交換会に積極的に取組みPC技術の活用、普及、用途拡大を訴えて行きたいと考えています。

本年4月に一般社団法人へ移行する新生PC建協は、PC技術の高度化と技術の普及を通じてPC建設産業の振興を図ることを目的としていますが、同時に社会が直面する課題を認識し、その解決策を提示することが私達に求められており、技術を通して社会に貢献することが専門技術力を有するPC建協の使命であると考えています。

今後とも、より一層のPC技術の普及・発展に貢献していく所存であり、関係各方面の方々のご指導・ご支援をお願いいたします。

* Yoshiyuki NORIHISA : (社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 会長
三井住友建設(株) 代表取締役社長